

〔翻 訳〕

資本主義の新たな形態としての『コレクション』： 過去への経済的価値付与とその帰結（下）

リュック・ボルタンスキー，アルノー・エスケール
中原 隆幸，須田 文明 [共訳]

Boltanski, L., Esquerre, A. (2014) “La 《Collection》, Une Forme Neuve du Capitalisme, La Mise en Valeur Economique du Passé et ses Effets”, *Les Temps Modernes*, no.679, pp.5-72

時間と差異

我々がマックス・ウェーバーに負っている、資本主義の最小限の定義¹¹²⁾は、無制限の蓄積要請を強調しており、これは、そこから利潤を引き出すために経済流通に資本を永続的に投入することによって特徴付けられている（つまり資本を増加させ、さらにこの資本は再投資されることになる）。この過程は抽象的性格を有している。というのも、豊穰化は会計的に評価されるからであり、それは、一定期間で蓄積された利潤が異なった二つの時期の二つのバランスシートの間での差異として計算されるという意味である。したがって、富が（高級で高価な財を使用することを希求する金持ちの人々の）消費欲求に向けられているような、ありそうな社会は存在し得ない¹¹³⁾。マルクスは資本主義のこうした特徴について、驚くべき表現を与えている。それは、市場経済における単純交換（同等の価値の商品を買おうとして、貨幣形態での等価物を取得するために売り手がある商品を手放すW-G-W）と、資本主義経済（資本家が商品を買うために貨幣を投じるのは、これをさらに貨幣へと変容するために、これを再販するため

にだけなのであってG-W-G、この操作の最終で、彼が投じていたよりもより多くの貨幣を得るためになのであるG-W-G'）との間の格差を強調することによってである¹¹⁴⁾。しかしながら、マルクスの批判的分析においても、（マルクスが依拠していた）古典派経済学（とりわけリカード）の研究においてと同様、商品はとりわけマニファクチャーの製品として捉えられている。マニファクチャーの発展は19世紀前半の主要な社会的事実をなしているのである。したがって、通常消費に向けられる事物と、工業的手法による製品とが優先的に検討されている。ところが我々が強調してきたように、資本主義の現在の進化の特徴の一つは、いわゆる新興国に向けた工業過程の移動と、旧工業国（とりわけ西欧諸国）における、我々が「豊穰化の経済」と呼んだものの別の価値付与様式から利益を引き出す経済の発展なのである。

こうした移動は、工業社会からの脱却としてだけでなく、資本主義からの脱却として解釈されることができた。ところが事実はまったくそうではない。その指標の一つが、外部化された工業発展から利益を生み出すと同時に、国内空間を豊穰化の経済へと再方向付けするように、移動することができるフローから生じる金融資本主義が現在演じている役割のいっそうの重要性なのである。しかしながら資本主義のこれらの変容の研究は、マニファクチャー世界——マルクスにあっては、剰余労働の搾取に基づいた利潤の形成の特権的な場として考えられていた——を超えて商品の分析を拡張させることを

前提としている。マルクスにおける商品の場合のように、依然として交換に向けられているとはいえ¹¹⁵⁾、それは工業的タイプの生産の対象ではないような、モノについての別の価値付与様式を考慮することによってである。交換関係の下で捉えられた事物の、様々な価値付与様式を考慮した変容のグループを描き出すために、上述の分析はなされてきたのである。異なった価値付与様式は、(これらの異なった様式において決定的な役割を演じている)二つの次元に応じて外見上ヘテロな特徴の多様性を組織化することを可能とした。それはおそらく、これらの価値付与様式が、資本主義経済が依拠している過程に特有なものだからである。最初の次元は、事物の価値付与において時間性がどのように考慮されるかに関わる¹¹⁶⁾。第二の次元はその差異から利潤を引き出すやり方に関わる。

こうして標準的形態に基づく工業的経済の場合においては、現在への関係が決定的なのであり、それはたとえ企業経営が、競争力を維持するために取り組まなければならないであろう投資を考慮しなければならないとしても、そのようなのである。産出された事物はその持続性の程度に応じてかなり高い価格で提案されることができるとしても、これらの事物はすべて中期的には廃棄物になるように運命づけられている。商品のローテーションの速度を急速化させるためにプログラム化されることができるとような、陳腐化が、(モノが新しいときに、このモノの価格が最大であるような)タイプの経済において中心的役割を演じている。標準的形態とは逆に、コレクション形態のオリジナリティの一つが、過去に由来するモノ(以前には失墜の期間を経験していたかもしれない)、近年のことではあるが、不滅となることを運命づけられていたかのように扱われるモノ、これらのモノの高付加価値化を資本主義的世界へと統合することを可能とさせることであり、そのことによって、新しい領域へのその拡張を可能とさせることである。この場合、時間的次元は、とりわけ事物の記憶的力を考慮する。このことは、例えば現代

美術作品のような、世界に登場したばかりのモノを評価することを可能とさせる。それは(これらのモノが、あたかもすでに過去に帰属しているかのように考えられることができる)未来へと投影された観点からこれを考察することによってである。最後に、資産的形態は未来へと向けられている。というのもこの形態は会計的観点からのみ評価されるモノに、現在価値を付与するからである。それは、このモノが決められた未来において達成することができるであろう価格を予想することによってである。

これらの異なった様式においてモノの間での差異がどのように活用されるかについて、こうした差異はとりわけ妥当である。もしこれらの差異の決定に関わる、またその価値付与に関わる知識の問題へと、つまり(資本主義の枠組みにおいて、とりわけ自分の掌握している特定の差異を活用し、それによってその競争相手たちがそこから利益を期待している差異を価値下落させるオペレーターの能力によって示される)権力の問題へと、こうしたやり方を関連づけるならば、こうした差異がとりわけ妥当なのである。標準的形態に基づく工業経済においては、生産の主要なエージェント(彼が生産手段の所有者であろうが、株主に依存していようと)が、標準的な所有権の形で表明される製品の妥当な特徴の記述を掌握している。こうした記述はプロトタイプと同時に(プロトタイプを生産する)見本とに関わり、これらを維持しようとし、保護しようとするのである(とりわけ知的所有権に依拠することで)。資産形態の場合においては、妥当な差異への権力の保持者たちは、所有者であろうとなかろうと(例えば格付け会社)、将来に関わる、とりわけ将来利潤に関わる物語recitsのうえに、評価の差異を基づかされることができるとは、この物語を実現させるように貢献するのである。

最後に、コレクション形態により担われる事物の評価を考えるならば、モノの間での妥当な差異(したがってこうした事物の価値の評価は

これに依存するであろう)を定義する権力を獲得する者に、掌握は属することがわかる。しかしながら工業経済と(コレクション形態に基づく)豊穰化の経済との間での重大な差異の一つは、以下の事実¹⁾に由来する。すなわち後者の事例においてはエージェントたち(人であろうと制度であろうと)は、(モノの価値がそれに依存する、またその妥当性を保証する)差異の記述が統合されている物語そのものを構成しており、これらのエージェントは、その評価とその流通とからまさに利潤を得ることができる者たちから、つまりとりわけ、その所有権を保持している者たちから独立した者として考えられなければならない(これらのモノが公共財と見なされない限り)。「公平無私」のこうした条項にもかかわらず、所有者は事物の価値付与に重要な権力を保持している。しかしこの権力は以下の度合に応じて間接的に明らかにされる。すなわち差異の物語を作り上げる人々、したがって制度によって、——すくなくともフランスでは——国家に従属する機関によって補強された言説を、自らの利益になるように歪曲する能力を有する人々、こうした人々にたいして所有者がどの程度まで掌握しきれているか、である。こうした間接的権力は、保有されている作品が資本化されるときに、決定的な役割を演じる。実際には以下のように考えることができる。すなわちコレクション形態と結合した装置が事物の

価値の決定に、より広大な安定性(工業の事物や、金融資産についてそうであるよりも)を与えるのである。過去の物語の構築は広大な制度に基づき、また国民的土台をしばしば有しており、物語がいったん確立されるや、将来について語る物語や現在について述べる物語よりもより頑強なのである。

本稿の冒頭で指摘しておいたように、豊穰化の経済はそれでも工業的生産の経済よりも不平等である。しかし労働およびその搾取の問題はそこでは異なって存在している。工業的経済においては、労働はマニファクチャーに集中しており、生産要素として同定されているが、モノの価値付与がコレクション形態に基づいているような経済は、とりわけ私と公との間で、自営と賃労働、プレカリアートとの間で、さらには、多様な活動(その多くについては、労働として同定されず、「欲望」や「情熱」の領域において解釈されている——しばしば苦痛に満ちた対価を払って、これを完遂する人々によってなされるそれを含む——)の間に分散された労働力供給から利益を得るのである。富の創出と分配に影響を与え、モノの価値付与装置の発展、人々の行為能力を捉える手段の発展を促すほどの変化をもたらすほどには、こうした現状は新しい社会的政治的要求の登場を促進するようなものではない。

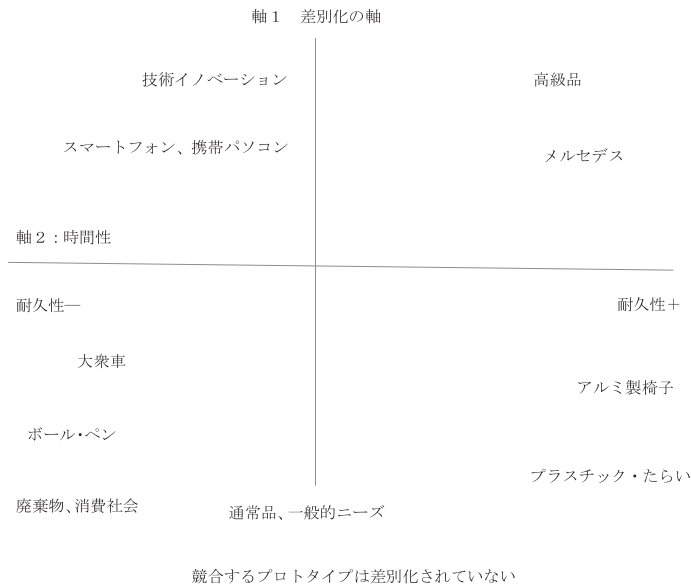


図 1：標準形態の価値付与装置

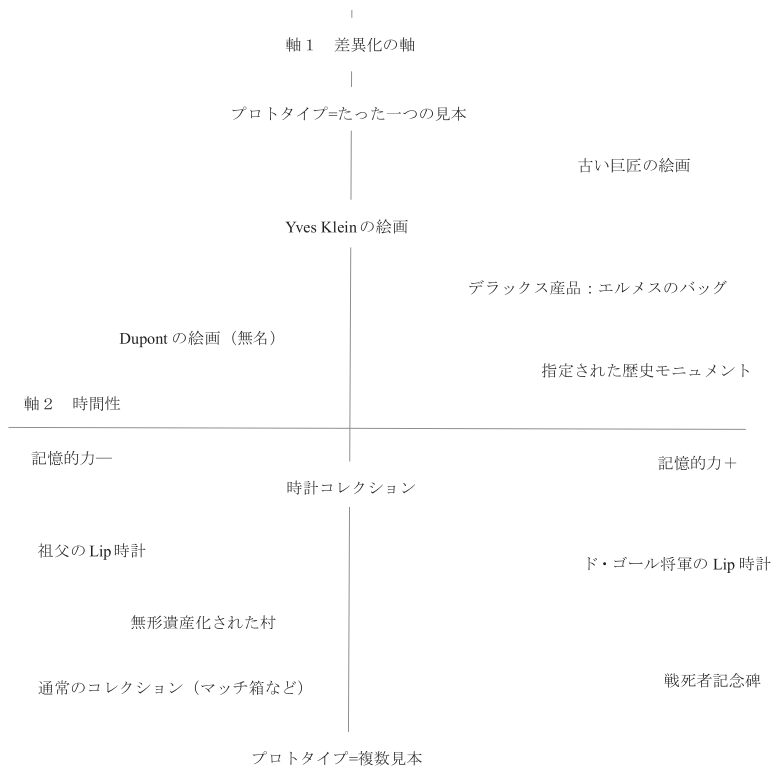


図 2：コレクション形態の価値付与装置

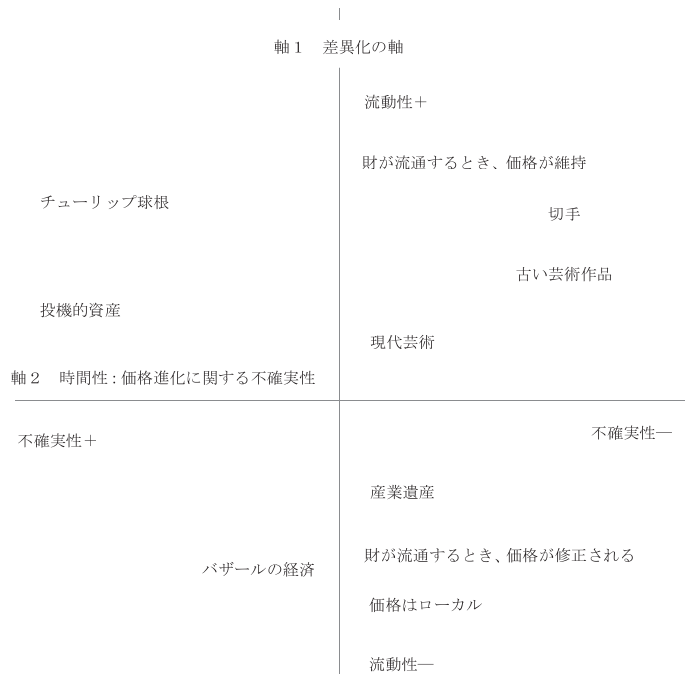


図3：資産形態の価値付与装置

註

- 1) いわゆる「非物質的」ないし「認知的」な側面を強調するアプローチについては以下を参照。André Gorz, *L'Immateriel*. Paris, Galilée, 3003. Yann Moulier-Boutang, *Le Capitalisme cognitive*, Paris, Editions Amsterdam, 2007.
- 2) 本稿は、その多くの部分は、EHESSセミナー「価値についての不確実性。選択、評価、正当化」(2012-2013, 2013-2014)による。これはLuc Boltanski, Bruno Cousin, Emmanuel Didier, Arnaud Esquerre, Berenice Hamidi, Jeanne Lazzarus, Daniel Urrutiaguerにより組織された。本稿はまた、セミナー「価値と価格、政治」(Ecole normale supérieure de CachanでChristian Bessyにより組織された)での会合による。我々は、これらのセミナーを通じて、我々に寛大にもそのコメントと批判を与えてくれた研究者たちに感謝したい。
- 3) 要約については、多くの著作の中でもとりわけ以下を参照。Robert Poitrenaud et al. *La Désindustrialisation: Restructurations, delocalization*, Paris, PEMF, 2006.
- 4) 以下を参照。Alain Touraine, *La Société postindustrielle*, Paris, Denoel, 1969, Daniel Bell, *Vesrs la société postindustrielle*, Paris, Robert

Laffont, 1999 (1973).

- 5) 我々は、広範な公衆に向けたくつろぎの雑誌を例に挙げることができよう。これらの公衆はこれらの雑誌を鏡として、教養があると同時に金持ちであるとして自らを評価することができる。それは例えばGallimard書店により刊行されているAir-France Magazineの場合であり、これはこの航空会社の利用者に無料で配布されている。さらには週刊誌Le Nouvel ObservateurのObsessionのような月刊付録、日刊紙Liberationの付録NextやLe Monde紙の週刊付録Le Magazineの例を挙げることでもできる。これらの雑誌は、我々の目的にとって、デラックスな事物(時計や香水、衣服、不動産、高級ホテルなど)のための広告と編集記事(流行や、ヴィンテージ、デザインについてであれ、祖先や家産的な次元が価値付与される場所であれ、芸術作品、展覧会、芸術家であれ)とを混合するという利点を提供してくれる。広告の、もしくは編集記事のこれらの様々な素材は、これらの雑誌において、あたかも同一世界の不可分な構成要素であるかのように連続的に扱われているのである。
- 6) デラックス産業についての、内部的であると同時に批判的でもある展望については以下を参照。*Marie-Claude Sicard, Luxe, mensonge et*

marketing, Paris, Pearson, 2010.

- 7) 以下を参照。Vincent Marcilhac, *Le Luxe alimentaire. Une singularité française*, PUR, 2012.
- 8) 以下を参照。Ashley Mears, *Pricing Beauty. The Making of a Fashion Model*, University of California Press, Berkeley, 2011.
- 9) Robert SalaitとMichael Storperにより1993年に刊行された著作*Les Mondes de Production, Enquête sur l'identité économique de la France* (éditions MSH)は、一方での脱工業化と、他方での高級な事物に向けられた経済の発展との間での関係を説明するのにきわめて妥当である。「可能世界」という概念に基づくことで、著者たちは工業的世界(ここでは競争は価格に基づき、「規模とコストの経済」により引張られている)と、競争が「範囲の経済」に基づいているような世界(著者たちはハイテクと同時に、デラックス製品の製造をこれに含める)とを区別するのである。ところが、当時のフランス経済の暗礁の一つ——と、彼らは述べるのだが——が、「特に成功していないような工業に向けられすぎている」(p.116)ことであり、「範囲の経済」をおろそかにしているのである。これはハイテクと並んで、米国や、デラックスな事物についてはイタリアにおいてパフォーマンスが良いのである。彼らの説明が示唆するところでは、こうした傾向を逆転させることが有益であり、これこそ実際に起こったことなのである。
- 10) 以下を参照。Christian Blanckaert, *Les 100 mots du luxe*, Paris, PUF, 2010. (Christian Blanckaertはコルベール委員会から任命された代表であり、Hermès Internationalの会長である)
- 11) Roxana Azimi, "L'élite prend l'art", *Le Magazine du Monde*, 5, avril 2014.
- 12) 無形遺産化の過程は現在、とりわけ人類学者のみならず、社会学者、地理学者、経済学者の注目の的になっている。このテーマに関する文献は日にちに増加している。とりわけ以下を参照。Xavier Greffe, *La Valeur économique du patrimoine*, Paris, Anthrops, 1990, Alain Berger, Pascal Chevalier, Geneviève Cortes, Maarc Dedeire (eds), *Patrimoines, héritages et développement rural en France*, Paris, Harmattan, 2010. 無形遺産化の過程の人類学者による分析についてはPalma de Majorqueを参照。著者は、こうした過程が二面性を持っていることを示している。一方ではこうした過程は都市再開発(ジェントリフィケーション)への障壁を打ち立てる。他方で、こうした過程は無形文化遺産化された場所の周辺地帯の商品化を促す。Jaume Franquesa, "On Keeping and Selling. The Political Economy of Heritage Making in Contemporary Spain", *Current Anthropology*, vol.54, no.3, 2013, pp.346-369.
- 13) ここ20年来のツーリズムの顕著な発展は、無形遺産化と、常に増加しつつある場所の「記憶の場」への転換をもたらした最も重要な要因の一つをなしてきた。国際的なツーリズム(旅行客人数で計算された)は、2012年には10億3,500万人(1950年には2,500万人、1980年には2億7,800万人、1995年には5億2,800万人)である。欧州が観光客の流れの半分以上を占めており、フランスが世界の旅行客の第一位の目的地をなしており、2012年の外国人旅行者8,300万人となっている(中小企業、商業、観光省の旅行統計による)。(旅行費用の低下と、とりわけ新興国における富裕層の絶対量の増加により可能となった——不平等の増加と結合した——)こうした国際的な観光の発展は、地理学者に対して、グローバリゼーション現象とアイデンティティ的再地域化過程との間での結合を理解させることを可能とさせるような要素の一つをなしている。以下を参照。Peter Burns, "Briefs encounters. Culture, tourism and the local-global nexus", in Salah Wahab, Chris Cooper (eds), *Tourism in the Age of Globalization*, Abingdon, Routledge, 2001, pp.290-305.
- 14) 近年来、典型的となり、しばしば模倣されている一つの例が、Bilbaoである。これは、衰退しつつあった工業都市であり、その名声は、建築家Franck Gehryの手になるGuggenheim美術館の設立により復興されることになった。こうした事業は、1980年代末に、ニュー・ヨークのGuggenheim当局のイニシアチブにより、またとりわけ新しいコレクションの購入がきわめて逼迫していた展示空間を拡張させ、多角化させるために、様々な場所に設置される「グローバル美術館」を設立することを目的とした広範なプロジェクトの一部をなしていたのである。このプロジェクトは、マサチューセッツ州の衰退した小さな工業都市であるNorth Adamsで、コンセプチュアル・アート、ミニマル・アートに的を絞った広大な美術館の設立を含んでいた。しかしこのプロジェクトは地域アイデンティティの実現の要請と、地域当局により擁護された労働者の記憶の要請と、Guggenheimにより期待されたグローバルアートの促進との間での緊張に突き当たった。以下を参照。Sharon Zukin, *The Culture of Cities*, Oxford, Blackwell, 1995, pp.79-108. フランスでも別の同様の多数の事例が見られることであろう。例えば、芸術と文化に活動を向けることで都市の

イメージを向上させようとするナント市当局による努力がある。それはとりわけ、ロワール川河口に沿って「芸術的散策道」を設置することによってであり、この散策道は「イベント」(展覧会やフェスティバル)を増やすことで、またデラックスマな商業施設の設置を促進することで、著名な芸術家により実施される「インスタレーション」を含んでいる。以下のパンフレットを参照。Nantes, le voyage, Nantes, les adresses CHIK.

- 15) Gilles LipovetskyとJean Serroyは、例外的とされるモノについて、「創造的で想像的な次元の、商業消費部門への体系的統合」としての美学化という観点からアプローチする。とりわけその現在の発展において考察され、資本主義により引き起こされるこうした「世界の美学化」は、著者たちによれば、「19世紀後半」以降、登場していたというのである。以下を参照。Gilles Lipovetsky, Jean Serroy, *L'Éthétisation du monde. Vivre à l'âge du capitalisme artiste*, Paris, Gallimard, 2013.
- 16) Pierre Bourdieu, *La Distinction. Critique sociale du jugement*, Paris, Minuit, 1979.
- 17) Rrano Moretti, *The Bourgeois. Between History and Literature*, Londres-New York, Verso, 2013.
- 18) 我々は「象徴的経済」というタームよりも「豊穡化の経済」というタームを優先させる。「象徴的経済」というタームは、「文化的」社会経済学の領域の種別性を引き出そうとする研究(しばしばブルデューの有名な研究, Pierre Bourdieu, "Le marché des biens symboliques", *L'Année sociologique*, vol.22, 1971, pp.49-126に準拠して)においてしばしば採用されている。結局、「象徴的」という特徴付けは、我々が強調したいとする種類の操作を描写するには広範すぎ、曖昧すぎるように思われる。人々の間の関係に挿入され、言語において捉えられるときに、「象徴的」次元を持たないモノなど存在しない。Jean Baudrillardが「記号」という語句について、また事物の一般的記号学を展開する彼のプロジェクトについて語る際の使用法についても類似した指摘をすることができる。まったく同様に、事物的世界に場を持たず、また影響をもたらさないような象徴や記号についての操作など存在しないのである。物質的であるようなもの、非物質的であるようなものとの間の対立を優先させることで(しばしばマルクスから着想を得ている)、こうしたアプローチは、経済に統合されているモノのすべてがこれらの二つの側面から検討されることができることを無視する傾向にある。このとき、異なった種類の経済が、これらのモノをどのように結合

しているかを分析することが困難になるのである。ところがこれらの結合がそれぞれ種別性を持っているという意味で、まさにこれらの「結合」こそが、取引を生み出すことになるものを定式化し、それを価値付与する様々なやり方を、つまり様々な経済を特徴付けているのである。

- 19) とりわけロンドンに拠点を置く大企業は、国民や地域、都市を高付加価値化するために、またその商業化を促進するためにこれらを製品と結合するために、国民的なアイデンティティや国民的小説の目印の構築と普及に特化している。以下を参照。Melissa Aronczyk, *Branding the nation. The Global Business of National Identity*, Oxford UP, Oxford, 2013.
- 20) 以下を参照。Alain Desrosières, Laurent Thévenot, *Les Catégories socio-professionnelles*, Paris, La Découverte, 1988. さらに最近の到達点としては以下を参照。Thomas Amossé, "La nomenclature socioprofessionnelle: une histoire revisitée", *Annales*, 68 (4), 2013, pp.1039-1075. 我々は、INSEEのアンケート調査に依拠することで、ここで我々に興味深い人口を数値化しようとすることもできる。しかし、これらのアンケート調査の構造とそれが使用している分類とを考えると、こうした数値化は実現するのがとりわけ困難で、常に反論されうる。結局それは、社会職業カテゴリー分類に応じて構成された個人的データと同時に、また職業のデータ、さらに集团的データ(産業部門に関わるデータ、就業活動の分類に依拠するデータ)を同時に考慮することを必要とする(Thomas Amosseとの会話から)。
- 21) Serge Kancel, Jerome Itty, Morgane Weill, Bruno Durieux, *L'Apport de la culture à l'économie de la France*, IGF, Inspection générale des Affaires culturelles, Paris, décembre 2013.
- 22) この種の量的研究において一般的にしばしばよくあるように、獲得された数字は絶対的な性格を持っておらず、したがって、これらの数字が使用される分類に、また使用される手法の選択に依存しているという意味で、異論のあるものである(この手法では「間接的就業」という分類にこれを含めているというように)。
- 23) 劇場の任期付き雇用者の闘争を除いて。その特徴は目新しいと判断されており、社会学者の広範な注目の的となった。以下を参照。Pierre-Michel Menger, *Les Intermittents du spectacle. Sociologie du Travail flexible*, Paris, édition de l'EHESS, 2011, Mathieu Grégoire, *Les Intermittents du spectacle: enjeux d'un siècle de lutes*, Paris, La Dispute, 2013.

- 24) 以下を参照。Luc Boltanski, Arnaud Esquerre, *Vers l'extrême. Extention des domaines de la droite*, Paris, Editions Dehors, 2014.
- 25) 以下を参照。Richard Florida, *The Rise of Creative Class*, New York, Basic Books, 2002.
- 26) Richard Florida, *Cities and the Creative Class*, New York, Routledge, 2005.
- 27) Cesar Grana, *Bohemian versus Bourgeois: French Society and the French man of letters in the nineteenth society*, New York, Basic Books, 1964.
- 28) リチャード・フロリダの研究は、より広範な研究全体に統合されている。それは、新しい社会階級の登場について20年来、強調してきた。例えば、knowledge workers, cognitarions, swarm capitalist, hackersなどである。こうした試み全体の分析について以下を参照。Richard Barbrook, *The Class of the New*, Londres, Mute Publishing, 2007.
- 29) クリエイティヴ・クラス論についての妥当な批判についてはとりわけ以下を参照。Stefan Kratke, *The creative capital of cities. Interactive knowledge, creation and the urbanization economies of innovation*, Chichester, Wiley-Blackwell, 2011.
- 30) Thomas Piketty, *Le Capital aux 21e siècle*, Paris, Le Seuil, 2013.
- 31) 以下を参照。Cyprien Tasset, "Les intellos précaires et la classe créative: le recours à la quantification dans deux projets concurrents de regroupement social" in Isabelle Bruno, Emmanuel Didier, Julien Prévieux, *Stat-Activisme. Comment lutter avec des nombres*. Paris, Zones, La Découverte, 2014, pp.117-132.
- 32) コンヴァンション経済学の基礎については、その特集を組んだLa Revue économique, 40 (2), 1989の他、以下を参照。Laurent Thévenot, "Investissement de forme", in Conventions économiques, Cahiers du Centre d'Etude de l'Emploi, Paris, PUF, 1985, pp.21-72, "Essai sur les objets usuels: propriétés, fonctions, usages", in Les Objets dans l'action, Raison Pratique no.4, Paris ed.de l'EHESS, 1993, pp.85-111, Philippe Batifoulier (ed), *Théorie des conventions* Paris, Economica, 2001, André Orléan, *Analyse économique des conventions*, Paris, PUF, 2004, Robert Salais, "Conventions de travail, mondes de production et institutions", *L'Homme et la Société*, 2008/4-2009/1, no.170-171, pp.151-174.
- 33) Arjun Appadurai (ed). *The Social Life of Things. Commodities in Cultural Perspective*, Cambridge, Cambridge UP, 1986.この著作はモノへの人類学的研究の転換を特徴付けた。それはJean Baudrillardにより展開されたアプローチと結合している。彼の二つの有名な書物であるLe Systeme des objets (Paris, Gallimard, 1968)とLa Societe de Consommation (Paris, Denoël, 1970)は、事物に新しい注目を向けた社会学の前提をなしていた。
- 34) ここで使用されている試験の概念については、以下を参照。Luc Boltanski, Laurent Thévenot, *De la Justification. Les économies de la grandeur*, Paris, Gallimard.
- 35) 価値と価値づけについての社会経済学的研究は、現在、とりわけ米国において大きく飛躍している。以下を参照。Michele Lamont, "A comparative Sociology of Valuation and Evaluation", *The Annual Review of Sociology*, 2012, no.38, pp.201-221.
- 36) Luc Boltanski, "Agapè, une introduction aux etats de paix", in *L'Amour et la justice comme compétences. Trois essais de sociologie de l'action*, Paris, Gallimard, 2011 (1990), pp.163-298.
- 37) Lucien Karpik, *L'Economie des singularités*, Paris, Gallimard, 2007.
- 38) 情動の論理の中に、蒐集家の実践の解釈の事例が見いだされることであろう。こうした論理はこのような実践の経済的次元を無視する傾向にある。Brigitte Derlon, Monique Jeudy-Ballini, *La Passion de art primitive. Enquête sur les collectionneurs*, Paris, Gallimard, 2008.
- 39) 以下を参照。Frederic Keck, *Claude Levi-Strauss. Une introduction*, Paris, La Découverte, 2005, とりわけ pp.125-136.
- 40) 以下を参照。Laurent Thévenot, "Growing economies of conventional forms", texte presente au colloque <Economic Sociology and new Theoretical Direction>, Conference in honor of Richard Swedberg, Upsala University, 12-15, September, 2013.
- 41) Wendy Espeland, Mitchell Stevens, "Commensuration as a Social Process", *The Annual Review of Sociology*, vol.24, 1998, pp.313-343.
- 42) George Akerlof, "The market for lemons: quality, uncertainty and the market mechanism", *Quarterly Journal of Economics*, vol.84, 1970, pp.488-500.
- 43) 以下の図と同様、この図は数値的データに基づいているのではなく、我々の分析を支えるモデルを説明するための役割を有している。

Mar. 2018

資本主義の新たな形態としての『コレクション』

- 44) 以下を参照。Krzysztof Pomian, *Collectionneurs, amateurs et curieux*. Paris, Venise:16e-18e siècles. Paris, Gallimard, 1987. さらに好奇心の陳列室については以下を参照。Julius von Schlosser, *Les Cabinets d'art et de merveilles de la Renaissance tardive*, Paris, Macula, 2012.
- 45) おそらく好奇心の陳列室から断絶性(ミシェル・フーコーにより分析された)の体系的蒐集への移行を、署名 signature の理論に基づいた知から表象の理論に基づいた知への移行と比べることができるであろう。以下を参照。Michel Foucault, *Les Mots et les Choses*, Paris, Gallimard, 1966.
- 46) 以下を参照。Noel Coye, "La collection introuvable de l'abbé Brreuil", in Odile Vincent (ed) *Collectionneurs? Territoires, objets, destins*, Paris, Creaphis, pp.52-70.
- 47) 以下を参照。Benoît de L'Étoile, "L'anthropologie apres les musées?", *Ethnologie française*, 2008/4, vol.38, pp.665-670.
- 48) 以下を参照。Dominique Pety, *Poétique de la collection au 19e siècle. Du document de l'historien au bibelot de l'esthète*, Paris Presses Universitaires de Paris Ouest, 2010.
- 49) Honoré de Balzac, *Le Cousin Pons*, Paris, Le Livre de Poche, 1983.
- 50) Anatole France, *Le Crime de Sylvestre Bonnard*, Paris, Calmann-Lévy, 1956 (1881). あらすじは複雑で、おそらく性的側面を含む象徴構造に基づいている。ここでは主人公である Sylvestre Bonnard が、フランス学士院の、文無しの老いたメンバーであり、博物館に付託するために、「黄金伝説」の貴重な草稿をシシリー島にまで探しに行くことを語るだけで十分であろう(小説の最後の方では、彼は若い娘を誘惑させたいと欲求しているとして誤って告発されることになる)。したがってその人物像は、大金持ちの魅力的なトレポフ王子とは対立しており、彼は、数多くの、豊富なコレクションを手にした後で、まったく文化的な価値も利益もないモノの探求に自らの財産を捧げるのである。
- 51) とりわけ以下参照。Susan Pearce, *Collecting in contemporary practices*, Sage, London, 1998, Russel Belk, *Collecting in a consumer society*, Routledge, London, 1995.
- 52) かつて工業的に生産されていた陶器のように。Thierry Bonnot はその軌跡について微細にわたり再構成している。Thierry Bonnot, *La Vie des objets*, Paris, éditions de la MSH, 2002.
- 53) Michael Thompson, *Rubbish Theory. The creation and destruction of value*, Oxford, Oxford UP, 1979.
- 54) おそらく以下のことを示すことができよう。すなわちコレクションの発展は、政治的変化の時期、しばしば革命や戦争の時期に引き続いて起こるのである。これらの出来事が、閉じた場所(館や城、修道院、教会等)にそれまで大事に保管されていた多くの事物を道ばたに放り出し、廃棄物の地位へと縮減するような結果をもたらした。これは、フランス革命に引き続く時期(この時期に骨董品 bric-a-brac という造語が誕生した)の場合であった。これについては、Le Cousin Pons の中で、「買い占め連中 Bande noire」の略奪についての記述がなされている。それは帝政時代の戦争に引き続く時期でもあり、Francis Haskell は、戦争が、イタリアの宝物の略奪の後に、フランスやイギリスの富裕な取得者のコレクションを豊富にすることに貢献したことを示した。以下を参照。Francis Haskell, *La Norme et caprice. Aspects du goût, de la mode et de la collection en France et en Angleterre, 1789-1914*. Paris, Frammarion, 1986 (1976). 1917年のロシア革命についても同様の指摘を行うことができるであろう。第二次世界大戦での「ユダヤ人の財産」の略奪については言うまでもない。
- 55) 以下を参照。Michel Melot, *Mirabilia. Essais sur l'inventaire général du patrimoine culturel*, Paris, Gallimard, 2012. 選抜作業を現場でフォローした調査については Nathalie Heinrich, *La Fabrique du patrimoine*, éditions de la MSH, 2009.
- 56) 芸術の手仕事については Anne Jourdain の以下の研究を参照。"Réconcilier l'art et l'artisanat. Une étude de l'artisanat d'art", *Sociologie de l'art*, vol.21, 2012, pp.21-42, "La construction sociale de la singularité. Une stratégie entrepreneuriale des artisans d'art", *Revue française de Socio-Economie*, vol.6, 2010, pp.13-30.
- 57) こうした技術の分析について、またマーケティングと政治におけるその使用については以下を参照。Christian Salmon, *Storytelling: la machine à fabriquer des histoires et a formater les esprits*. Paris, La Découverte, 2007.
- 58) 以下のように考えることができる。コレクションの発展とともに、身体的親密性に与えられた重要性が、遺品=遺骨の論理を、記憶の力を担った別の事物の複数性へと拡張させることを示しているのである。以下を参照。Krzysztof Pomian, op.cit., pp.25-29, Arnaud Esquerre, *Les Os, les cendres et l'Etat.*, Paris, Fayard, 2011, pp.137-162.
- 59) Gérard Labrot, "Eloge de la copie. Le Marché

- napolitain (1614-1764)”, *Annales*, 2004/1 59e année, pp.7-35. 油絵の署名に付与されたいっその重要性についても同様の指摘を行うことができよう。以下を参照。Jean-Marc Poinot, *Quand l'oeuvre a lieu. L'art exposé et ses récits autorisés*, Genève, Institut d'art contemporain, 2008, pp.152-170.
- 60) Thorstein Veblen, *Théorie de la classe de loisir*, Paris, Gallimard, 1970.
- 61) 偉大なワインの蒐集, およびテロワールの無形遺産的価値を増大させるための裁量については以下を参照。Marie-France Garcia-Parpet, *Le Marché de l'excellence. Les grands crus à l'épreuve de la mondialisation*, Paris, Le Seuil, 2009.
- 62) 以下を参照。Christian Bessy, Francis Chateauraynaud, *Experts et faussaires*, Paris, Métailie, 1995. Christian Bessy と Francis Chateauraynaud の有名な著作は, モノへの関係の二つの様式と, それに与えられる判断の二つの様式との間での突き合わせを対象としている。すなわち, 言語と分類に依拠する様式と, 感覚的経験に依拠する様式とである。ワインについての判断への言及の事例については, pp.297-301 を参照せよ。
- 63) かくしてメゾン・アールキュリアル(オークション業者)は, 最近, エルメスのバッグ(ここ20年間に製造されていた)の競売手続きを行った。その競売の付け値は4万ユーロを超えるものもあった。
- 64) 以下を参照。Judith Ickowicz, *Le Droit après la dématérialisation de l'oeuvre d'art*. Dijon, Les Presses du Réel, 2013.
- 65) 以下を参照。Nathalie Heinlich, Roberta Shapiro (eds), *De l'artification. Enquête sur le passage à l'art*, Paris, éditions de l'EHESS, 2012.
- 66) 不滅という観念はここでは, ハンナ・アーレントがこれに与えた意味で理解される。以下を参照。*Condition de l'homme moderne*, Paris, Calmann-Lévy, 1983 (1961), pp.187-230.
- 67) 無形遺産の公共政策と, ここ40年来のその拡張については以下を参照。François Hartog, *Régimes d'historicité. Présentisme et expériences du temp.* Paris, Le Seuil, 2012 (2003), pp.241-249. こうして歴史的モニュメントの修復のためのアテネ憲章が「偉大なモニュメントのみに集中していた」一方で, その30年後のヴェニス憲章は「歴史的モニュメント」の観念の中に, 「隔絶した建築的創造物のみならず, 特別な文明を示している都市や農村の景勝地」を統合している。
- 68) 以下を参照。Nelson Gravurn (ed), *Ethnic and tourist art*, Oakland, University of California Press, 1979. Paul van der Grijp, *Art and exoticism. An anthropology of the yearning for authenticity*, Transaction publishers, London, 2009. ヨーロッパでは観光経済に責任を有する機関はますます, 「文化ツーリズム」に向かうようになっており, これは「マス・ツーリズム」の相対的な衰退に対応するためである。こうしたツーリズムは「太陽と海」以外のものを提供できず, 安い価格で同等の質のサービス給付, とりわけホテル業を提供する南側諸国によって, 競争にさらされているのである。「文化ツーリズム」という単語によって, まずは——と, マーケティングは言う——, 「指定された」地域, もしくは「モニュメント」を中心に組織されることで, 提供される製品の代替可能性, したがってその競争を減少させるツーリズムを理解しなければならないのである。しかし「モニュメント」は相対的に少数であり, これらの機関は「文化」というタームを拡張させたのである。こうして我々は, Malaga の商業会議所により, 「地中海における文化ツーリズムを促進するために」発行されたパンフレットの中に, 文化ツーリズムに関するこうした定義を読むことができる。すなわち, 「(略)文化ツーリズムは通常の宿泊地とは異なった場所に向けられ, 文化活動における体験に富んだ, 別の文化を知り, 理解し, 探求したいという欲求により動機づけられた旅行である」(Chambre de commerce de Malaga, *Le Tourisme culturel en Méditerranée: quelques opportunités pour l'Espagne, la France, Le Maroc, la Tunisie, Invest in Med*. Etude.no.25 mars 2011, p.11)。
- 69) Michael Thompson, op.cit., pp.13-33.
- 70) Claude Levi-Strauss, *La Pensée sauvage*, Paris, Plon, 1962, pp.230-259.
- 71) Mieke Bal, “Telling objects: a narrative perspective on collecting”, in John Elster, Roger Cardinal (eds), *The cultures of collecting*, Reaktion books, London, 1994, pp.97-115.
- 72) 近年の有名な事例は, ベラム紙のデッサン La bella Principessa についての論争の事例であり, それは, スフォルツァ家に捧げられた15世紀の書物の中に切り取られ, ワルシャワで保存されていたとされる。論争は, このデッサンがレオナルド・ダヴィンチの手になるものなのかどうかを知ることに関わる。Christie's により12,000~15,000ドルと評価された, この同一のデッサンは, 本当にダヴィンチの手になるものとして専門家たちにより判断されていたとすれば, おそらく1億5,000万ドルほどすることであろう。以

下を参照。Martin Kemp, *La bella Principessa: The story of a new masterpiece by Leonard da Vinci*, London, Hodder & Stoughton, 2010.M. Kempはこの作品を真実のものと評価しようとした専門家たちに同意している。

- 73) 偶像破壊の場合におけるように、不滅を約束されている事物が進んで破壊され、もしくは廃棄物の地位へと縮減されることができるのは、まさにその記憶の力を廃棄するためなのである。以下を参照。Olivier Christin, *Une révolution symbolique. L'iconoclasme Huguenot et la reconstruction catholique*, Paris, Minuit, 1991.
- 74) 少なくとも、このモデルの精巧なレプリカを欲せられるもの、販売可能なものとさせるための広告的主張を信じるならば、そのオリジナルな見本は1940年代頃にこの時計会社の作業場で作られた。
- 75) 芸術家Christian Boltanskiが、見ず知らずの、最近亡くなった人に帰属していたモノ(写真やランプ、勲章といった)すべてを美術館の中に展示したとき、この芸術家が働かせたのが、記憶的価値のこうした差異なのである。もしこうした公的記憶化の行為が有名な人々の記憶を言祝ぐことを目的としていたならば、容易に拒まれ、いわば凡庸であったことであろう。こうした行為の中には、かつて「虚栄心」と呼ばれていたものの等価物が認められることであろう。というのも、すべての死者は同等の価値を有するからである。例えば以下のカタログを参照。*List of exhibits belonging to a woman of Baden-Baden, followed by an explanatory note*, Museum of Modern Art, Oxford, 1973.
- 76) 多くの現代芸術家は、真正性の問題を自らの作品そのものの中においたが、それは、これを疑問視するためにであり、とりわけ「絵画=畀」におけるDaniel Spoerriの場合がある。これは第三者により制作されたが、(彼らに対して自らの「保証金」を提供する)この芸術家によって署名されているのである。
- 77) Steven Gelber, "Free market metaphor: the historical dynamics of stamp collecting", *Comparative Study in Society and History*, vol.34, no.4, oct.1992, pp.742-769.
- 78) なるほど事物を蓄積し、これを孤独のうちに組織化する人々が存在する。しかし逸脱し、知能に遅れがあり、心神喪失と見なされる人々により実現される作品の場合がしばしばそれであった。障がい者アートへの関心の発展とともに、これらの多くが回収され、展示されてきた(Luigi Lineriにより実施され、2012年にパリの障がい者アート美術館Halle Saint-Pierreで展示された宝石の蓄積のように)。障がい者アートへのこうした
- 関心によって、おそらくは、複数の芸術家たちがとりわけ1970年代に、孤独な活動としてのコレクションのテーマに専心したのである。Annette Messengerの初期の作品を参照。彼女は「蒐集家」として定義されている。またHenri Cuocoの作品も参照。彼は書籍*Le Collectionneur de collections*, Paris, Le Seuil, 1995にこれらの作品を集めている。
- 79) Serge Reubiは、きわめて類似した概念、つまり欠落lacuneの概念の重要性を示している。Serge Reubi, "La lacune, miroir des pratiques de collection", *Traverse*, no.3, 2012, pp.81-90.
- 80) 例えば、切手のコレクションの場合では、コンヴェンション的な差異の形成についてのAntony KuhnとYves Moulinの論文の中に多くの事例が登場している。Antony Kuhn, Yves Moulin, "Le rôle des conventions de qualité dans la construction d'un marché: l'évolution du marché philatélique français (1860-1995)", *Entreprises et histoire*, 2008/4, no.53, pp.54-67.
- 81) Francis Haskellの研究の中に、その多くの事例が見いだされる。彼は嗜好の判断の形成において蒐集家が演じる役割の重要性を示している。Francis Haskell, *La Norme et le caprice*, Paris, Flammarion, 1993 (1976), *L'Amateur d'art*, LGF, 1997,より最近では*Le Musée éphémère*, Gallimard, 2002.
- 82) 「特異性のレジーム」の概念についてはNathalie Heinrich, *L'Elite artiste. Excellence et singularité en régime démocratique*. Paris, Gallimard, 2005.
- 83) Pierre Bourdieu, *Les Règles de l'art. Genèse et structure du champ littéraire*, Paris, Le Seuil, 1992, *Manet. Une révolution symbolique*, Paris, Raisons d'agir, Le Seuil, 2013.
- 84) Raymond Moulin, *L'Artiste, l'institution et le marché*. Paris, Flammarion, 1992.
- 85) 我々はここではAlfred Gellにしたがっている。芸術、より一般的には表象の作業が、社会的現実において挿入された使用法やさらに適用と常に結合されていることを彼は示している。Alfred Gell, *L'Art et ses agents, une théorie anthropologique*, Dijon, Les Presses du Réel, 2009 (1998).
- 86) 例えば2013-2014年にCatherine Grenierの指揮の下で実施され、ポンピドゥー・センターで提示された「複数の近代性Modernité plurielles, 1905-1970」展覧会がそれを示している。この膨大な展示は芸術の歴史の再編を描き出すことを目的とし、著名な絵画の脇に、現代芸術の真のアイコン、周縁的な芸術家の作品(フランス現代美術館のコレクションの中に所蔵されており、その

うちのいくつかについては、それまでは公衆に展示されることはなかった)をおくことでなされた。これらの油絵の多くは、(その出身国で近年登場した蒐集家たちが最近になって注目するようになった) 芸術家たちによって創作されたのである。

- 87) おそらく従兄ボンスの人物像の中に、女性たちにより無視され拒絶された独身老人を見いだすことができるであろう。彼はその欲動を美食や芸術に再転換させたのである。こうしたステレオタイプの起源は、とりわけ精神分析を援用することで後に広く普及することになろう。コレクションと蒐集家についての精神分析的文献はきわめて豊富であり、フロイト自身が蒐集家であったという事実により促進された。とりわけ以下を参照。Michelle Moreau Ricaud, *Freud collectionneur*, Paris, Campagne Première, 2011; Gérard Wajcman, *Collection, suivi de L'Avarice*, Caen, Nous, 1999; Werner Muensterberger, *Le C'lectionneur. Anatomie d'une passion*, Paris, Payot, 1994.
- 88) 以下を参照。Luc Boltanski, "Pouvoir et impuissance. Projet intellectuel et sexualité dans le Journal d'Amiel", *Actes de la Recherche en Sciences Sociales*, 1 (5-6), novembre, 1975, pp.80-108.
- 89) 以下を参照。Steven Gelber, *Hobbies. Leisure and the culture of work in America*, New York, Columbia UP, 1999, pp.114-124.
- 90) 古代ローマにおいてなされた活動としての Otium の概念については以下を参照。Paul van der Grijp, *Passion and Profit*, Transaction Publishers, London, 2006, p.11.
- 91) 例えばそれは、「アール・デコ」の場合であり、その「呼称は1960年代に創出された」。それは、欧州および米国の様々な美術館で一連の展覧会を開催していた展覧会主催者や批評家によってつけられたのである。特徴的に「アール・デコ」なスタイルの創出過程(その一つの特徴は場所と国に応じた柔軟性とハイブリッド化である)は、Elodie Lacroix Di Méoにより詳細に分析されている。以下を参照。"Les enjeux identitaires de la patrimonialisation de l'art déco", in Jean-Claude Nemery, Michel Rautenberg, Fabrice Thuriot, *Stratégies identitaires de conservation et de valorisation du patrimoine*, Paris, 2008, pp.55-62.
- 92) かくして Olav Velthuis は、彼がアムステルダムとニュー・ヨークで行ったエスノグラフィー的研究において、以下のような装置を記述するのである。すなわちこの装置は「商業の俗世界」から「芸術の神聖な世界」を隔絶することを可能とさせるのである。Goffman が「舞台裏」と「舞台」とを区別したように、プレゼンテーション空間 (front space) と交渉空間 (back space) との間の対立、最初の市場 (そこでは、美術品の芸術的価値と結合しているとされる価格を画廊主が維持している) と、純粋に投機的な第二の市場との対立を、彼は分析するのである。Olav Velthuis, *Talking Prices. Symbolic meanings of prices on the market for contemporary art*, Princeton UP, 2005, pp.42-52.
- 93) 以下を参照。Nathalie Heinrich, *Le Paradigme de l'art contemporain. Structures d'une révolution artistique*, Paris, Gallimard, 2014, とりわけ pp.223-230. 現代アートに特化したジャーナリストによりしばしば記述されている最近の著作の中に、偉大な蒐集家たちが、いかに芸術相場を「操作している」かについて、情熱的であると同時に批判的な調子で、多くの逸話が語られているのが見られるのである。例えば、Rebeyroll の作品を体系的に購入し、これを所蔵している François Pinault について、もしくは Sandro Chia の全作品について取引し(その相場を下落させることを目的として)、あるいは逆に、様々な権謀術策によって Damien Hirst の作品の相場を上昇させようとしている Charles Saatchi について、とりわけ以下を参照。Harry Bellet, *Le marché de l'art s'écroule demain à 18h30*, Paris, Nil, 2001; Don Thompson, *L'affair du requin qui valait douze millions. L'étrange économie de l'art contemporain*, Paris, Le mot et le reste, 2012 (2008).
- 94) 以下を参照。Isabelle Graw, *High Price. Art between the market and Celebrity culture*, New York, Sternberg Press, 2009; Isabelle Graw, Daniel Birnbaum (eds.), *Canvases and Careers today, Criticism and its markets*, New York, Sternberg Press, 2008. 最後の著作は、蒐集家と(芸術作品の膨大な販売が依拠している) 機関とが演じている役割が、経済環境(印象派から1970年代頃まで作品に与えられた価値がそこで形成されていた)をいかに修正してきたかを分析することを目的としている。こうした経済環境については H.&C. White がすでに古典となった著作においてその形成について見事に描き出したのである。Harrison et Cynthia White, *La Carrière des peintures au XIXe siècle*, Paris, Flammarion, 1991 (1965).
- 95) 最近の研究が示しているように、受賞者リストやヒットチャートが演じるいっそうの重要性はけっして芸術の世界に限られたことではない。こ

のことは大企業（ベンチマーキングに依拠したマネージメント技術が生み出されている）において確認できるだけでなく、ますますしばしば公共部門、とりわけ大学の学術研究の管理や方向付けの領域において、このことが確認されるのである。この点について以下を参照。Alain Desrosières, *L'Argument statistique*, Paris, Mines Paris Thech, 2008, vol.2, *Gouverner par les nombres*. とりわけ pp.27-32. Isabelle Bruno, Emmanuel Didier, *Benchmarking: l'Etat sous pression statistique*, Paris, La Decouverte, 2013. さらに、研究管理についての新しい形態については以下を参照。Isabelle Bruno, *A vos maraques, prêts... cherchez! La stratégie européenne de Lisbonne, vers un marché de la recherche*, Paris, éditions du Croquant, 2008.

- 96) 以下を参照。Alain Quemin, *Les Stars de l'art contemporain*, Paris, CNRS éditions, 2013.
- 97) 「資産的 actif」というタームはここでは厳密に会計的な意味では、すなわちバランスシートにおける負債に対立するものとしては使われていない。モノがその文字表現を通じることによってしか認められないときに、このタームはモノを参照する。
- 98) 交換が容易に、頻繁に実行されるためには、財の同定は安定した標識に基づくことができなければならないし、情報の非対称性の存在について事業者の不安を限定するように容易なアクセスが必要である。以下を参照。Bruce Carruthers, Arthur Stinchcombe, “The social structure of liquidity: flexibility, markets and states”, *Theory and Society*, vol.28, 1999, pp.353-382.
- 99) 以下を参照。Antony Kuhn, Yves Moulin, loc.cit
- 100) Jonathan Grant, “The socialist construction of Philately in the early Soviet Era”, *Comparative studies in society and history*, 1995, 37, pp.476-493.
- 101) Hubert Duez, *Secrets d'un brocanteur*, Paris, Le Seuil, 1999, p.65. ノミの市における価格形成のとりわけ見事な分析については以下を参照。Hervé Sciardet, *Les Marchands de l'aube. Ethnographie et théorie du commerce aux Puces de Saint-Ouen*, Paris, Economica, 2003.
- 102) 以下を参照。Cliford Geertz, *Le Souk de Sefrou, Sur l'économie de bazar*, Paris, Bouchene, 2003. Hernando de Sotoもまた次のことを示している。すなわちリマ市の郊外で活動している無数の中小企業は、その語句の厳密な意味での資本によっては区別されていない。というのもそれらの所有権が制度的、法的な装置に基づいておらず、そこから引き出されうる所得は、地域的結合と個人

的な、とりわけ家族的な関係に完全に依存しているからである。以下を参照。Hernando de Soto, *Le Mystère du capital. Pourquoi le capitalisme triomphe en Occident et échoue partout ailleurs*, Paris, Flammarion, 2005.

- 103) この種の投資の財務的最適化を目指す美術品購入者に対する、フィナンシャル専門家により与えられるコンサルティングの考え方の一つのイメージを得るためには以下を参照。Ralph Lerner, “Art and Taxation in the United States”, in Claire McAndrew, *Fine Art and High Finance. Expert advice on the economics of ownership*, New York, Bloomberg Press, 2010, pp.211-248.
- 104) こうした評価様式が取る重要性については、また企業評価から公共投資評価、もしくは(将来世代の厚生を維持するために必要な)コストの計算にまで至る、こうした評価様式の拡張については、以下を参照。Jonathan Nitzan, Shimshon Bichler, *Le Capital comme pouvoir. Une étude de l'ordre et du créordre*, Paris, Max Milo, 2012 (2009), とりわけ pp.255-287. また資本化の過程の社会学的分析については以下を参照。Fabien Muniesa, “A flank movement in the understanding of valuation”, in Lisa Adkin, Celia Lury (eds) *Measure and Value*, Chichester, Wiley-Blackwell, 2012, pp.24-38. Horacio Oritz, “Value and Power: some questions for a global political anthropology of global finance”, in Paul Acosta, Sadaf Rizvi, Ana Santos, *Making sense of the Global: Anthropological Perspectives on Interconnections and Processes*, Cambridge, Cambridge UP, 2010, pp.63-81.
- 105) この点については以下を参照。André Orléan, *L'Empire de la valeur*, Paris, Le Seuil, 2011 (坂口訳『価値の帝国』, 藤原書店)。さらに経験的な応用については以下を参照。De l'euphorie à la panique: penser la crise financière, Paris, éditions rue d'Ulm, 2009.
- 106) Charles Kindleberger, Robert Alber, *Manias, Panics and Crashes*, Macmillan, New York, 2011.
- 107) こうした危機についての歴史的な重要文献に依拠した詳細な分析については、以下を参照。Laurence Fontaine, *Le Marché. Histoire et usage d'une conquête sociale*, Paris, Gallimard, 2014, pp.288-328.
- 108) 以下を参照。Jeanne Lazarus, *L'Épreuve de l'argent. Banque, banquiers, clients*, Paris, Calmann-Lévy, 2012, pp.222-225.
- 109) とりわけコレクション所蔵物の場合における、価

値にかかる不確実性の縮減装置としての競売については以下を参照。Charles Smith, *Auctions. The Social Construction of value*. The Free Press, New York, 1989.

- 110) 例えばGeorges Batailleにおける「費消」概念から刺激を受けることによってである。Georges Bataille, *La Part Maudite. Précédé de La notion de dépense*, Paris, Minuit, 1949.
- 111) ある女性社会学者により記述され、一般読者向けの、多くのフィールド・ワークに基づいた一冊の著作の中に、ニュー・ヨークでの現代アートの大きな競売についての、エスノグラフィーに豊んでいると同時に、きわめて洞察力ある記述を見いだすことができる。彼女は、自らのコレクションの輪郭を拡張させ、修正させることを願っている新参者の蒐集家（とりわけ最初の市場を通過する）と、むしろ資産の蓄積に傾いた蒐集家（第二の市場に依拠し、「彼らが市場価格を支払ったことを確実に知る」ために競売に依拠する）との間の違いを強調する。この女性社会学者は同時に、後者の人々の間での個人的関係の存在を示す兆候を適切に描いている。彼らにとっては、こうした大規模な競売がまた社交的儀礼をなし、彼らでの結合を強化する機会をなしているのである。Sarah Thornton, *Sept jours dans le monde de l'*

art, Paris, Autrement, 2009 (2008), pp.16-55.

- 112) Max Weber, *Economie et société*, Paris, Plon, 1971.
- 113) 以下を参照。Luc Boltanski, Eve Chiapello, *Le Nouvel Esprit du capitalisme*, Paris, Gallimard, 1999, p.37. (三浦他訳『資本主義の新たな精神』ナカニシヤ出版)
- 114) Karl Marx, *Le Capital*, Paris, Gallimard, 1963, pp.239-250.
- 115) マルクスにおける商品の定義における交換の役割については以下を参照。Anselm Jappe, *Les Aventures de la marchandise*, Pour une nouvelle critique de la valeur, Paris, Denoël. とりわけpp.50-60.
- 116) ここでの資本主義の時間的次元の検討は、速度を現代資本主義に特徴的な病理とするような分析とは異なり、急速化への批判を強調しない（だからといって遅さを賞賛するわけではない）。以下を参照。Hartmut Rosa, *Accélération. Une critique sociale du temps*, Paris, La Decouverte, 2010.

(2017年11月24日掲載決定)